



祝 辞

九州大学名誉教授
松井 千秋

福岡県建築鉄骨協議会が創立10周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

協議会は産・官・学の会員で構成され、私自身、設立当初からの会員(顧問)としてこの10年間の成果を意義深く感じております。協議会は年四回開催され、建築鉄骨の多岐にわたるテーマを毎回取り上げ、行政、設計、製作、研究の各分野の会員が、鉄骨の諸問題への理解を深め、共通の認識が持てるようになってきたことは、建築鉄骨の健全な普及、発展の上で意義は大きいと思います。

協議会ではこれまで、建築基準法の改正内容、耐震改修促進法と改修工事の現状、鉄骨製作工場の大員認定制度と鉄骨の品質管理、九州で製作された建築鉄骨の接合部と柱脚の調査報告、福岡県西方沖地震の被害調査報告、溶接・高力ボルト・塗料などの新しい技術、鋼材の現状と動向、鉄骨学校建築の現状、木と鉄の環境共生建築への取組み、鉄骨部材と各種接合部の最新実験報告など、広範囲な問題が取り上げられ、講演者の熱心な説明によって、私自身、鉄骨関連技術の進歩・発展の現状を学ぶことができ大変感謝しております。私もこの協議会で、永年にわたって研究してきたCFT(コンクリート充填鋼管)構造について紹介する機会を持つことができました。一般になじみの無いこの構造について、難しい用語を用いずに耐震性に優れていることを説明しましたが、その構造性能が理解され、これからの普及につながればと願っています。

協議会は、これから次の10年に向け、これまでの流れを継続し、各専門分野の会員に建築鉄骨への共通の理解がさらに深められることを願っています。これまでも鉄骨製作工場や建築鉄骨の建設現場の見学会が行なわれてきましたが、建築鉄骨を理解する上で一番役立つことは、現物・現場をその担当者の説明・解説を聞きながら見ることにあると思います。これからも充実した見学会の企画が継続されることを望みます。それから、各例会での講演に対して、活発な質疑応答が望まれます。各分野の会員による多方面からの討議は、出席者にとっても、そのテーマの本質を理解する上で役立ちます。それこそが協議会としての重要な役割と思います。

これからも協議会が、安全性について社会から信頼される建築鉄骨の普及・発展に貢献することを祈念します。